

平成20年 4月30日

平成19年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 言語系コース(国語)

氏名 余郷裕次

プロジェクトの名称	絵本のよみあいが自己省察力ならびに対人関係力の向上に及ぼす効果についての実証的検討とそれを基盤とする教育プログラムの開発	配分 予算額	297,000 円
プロジェクトの概要	本プロジェクトは、教職を目指す学生を対象とし、絵本の読みあいを通して、自己省察力ならびに対人間関係力を高めること目的とした。 人の認知と感情や対人関係のあり方を主題に含む絵本を二人で読み合うという体験を通して、自己を省察し対人関係を見つめ直す場を設定した。 [読みあい実験1] 附属中学校3年生14名を対象に、読みあいプログラムを実践し、教育効果を検証した(2008年1月31日/附属中学校図書室)。 二人一組とし絵本の読みあいを進めてもらい、記録シートに記入してもらった。記録シートの項目は、読み手に対して○「私がこの絵本を選んだ理由」○「私が読んでいるとき、()さんは…(どんなふうに聞いていたか相手の様子)」○「私は読みながら…(と、考えていました。感じていました。)/聞き手に対して○「()さんが、この絵本を読んでくれているとき、私は…(と、考えていました。感じていました。)」○「この絵本を読んでいるときの()さんは…(どんなふうに読んでいたか、青い手の様子)」○「読んでもらったこの絵本は…(絵本について、ふたことみこと)」である。各3冊ずつ、一組6回の読みあい実験を行った。 [読みあい実験2] 読みあい実験1の対照資料とするために、大学生4名(学部3年生)を対象とした追試を行った(2008年2月27日/余郷研究室)。実験1と同じ記録シートを用いた。各3冊ずつ一組6回の読みあい実験を行った。		

成 果 の 概 要

これまで絵本そのものやその読み聞かせによる教育力がさまざまな形で実証されてきたが、それをふまえ絵本を読みあう過程における読み手と聞き手の関係の深まりに着目して開発された、本プロジェクトによる教育プログラムは、人間関係において、相手の声やことば、表情を親和的・肯定的に受けとめ合う場を醸成するものであることが確かめられた。

〔開発したワークシート〕

絵本を読みあう 氏名 () 年 月 日

- 私が絵本『]を選んだ理由(絵本について、ふたことみこと)
- 私が読んでいるとき、()さんは…(どんなふうに聞いていたか相手の様子)
- 私は読みながら…(と、考えていました。感じていました。)

.....

- ()さんが、私に読んでくれた絵本は『]です。
- ()さんが、この絵本を読んでくれているとき、私は…(と、考えていました。感じていました。)
- この絵本を読んでいるときの()さんは…(どんなふうに読んでいたか、青い手の様子)
- 「読んでもらったこの絵本は…(絵本について、ふたことみこと)」

今回は、中学生段階を想定してワークシートを開発したが、このワークシートは、学年や発達段階によって、様々に応用が可能である。

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。
 2. 概要については、800字程度にまとめること。
 3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。
 4. なるべくパソコン等で作成願います。